

## 市史編纂コラムバックナンバー第4回 「松江制服図鑑明治編—私立中学修道館の巻—」の一部訂正

この度、読者の方から本コラムの間違いについてご指摘をいただきましたので、以下のとおり一部文章を訂正し、あわせて、新たに分かったことをご紹介します。

### ●訂正する箇所

本コラムでは、松江修道館の記念写真について「写真中央は、漢学の海野恭基（典之）先生」と記していましたが、「海野恭基」と「海野典之」は、別の人物であるとのことご指摘を受けました。このため、次のように訂正いたします。

（訂正後）「写真中央は、漢学の海野典之（秋坪）先生」

### ●海野典之と海野恭基

海野家については、これまでも時折当課にお問い合わせがあり、松江市の歴史に関心を持つ方にとって重要な家と言えます。この機会に、新たに確認した情報を整理してご紹介します。

#### 海野典之（うんの・のりゆき）

天保10年（1839）、鳥取藩家老米子荒尾家の医師・福島椿堂（林泉）の長子として生まれる。広瀬藩（松江藩の支藩、藩領は現在の島根県安来市広瀬町）において代々藩校教授をつとめる儒者・海野家の養子となり、明治元年（1868）、広瀬藩の儒学助教に任ぜられた。藩校閉校後は新たに開かれた母里小学校など諸校で訓導、校長をつとめ、後に本コラムにあるとおり私立中学松江修道館教師となり、明治41年（1908）米子で没した。

海野家代々の蔵書は島根大学附属図書館に寄贈され、「海野文庫」（331件1061冊）として公開されている。

#### 海野恭基（うんの・ゆきもと）

嘉永7年（1854）1月9日、松江藩士の海野家五代左助の長子として生まれる。はじめ廉蔵と名乗り、後に恭基と改名。松江城下の外中原小学、内中原小学、松江高等小学校で訓導、校長をつとめ、明治41年（1908）に退職するまで初等教育に尽くした。また、大きな身体を活かして居合術、体操の普及につとめ、茶道講師、作法講師としても高名だった。その評伝を採録した『内中原教育』は見出しで「異色教師 海野恭基」としている。昭和7年（1932）4月7日、79歳で没した。墓は松江市外中原町の清光院。

以上から分かるように、よく調べてみれば二人は出身地も生まれた時期も得意分野も異なるのですが、少し珍しい「海野」という名字と「明治期に活躍した教育者」という共通項から、時に同一人物と誤解されてきたと考えられます。

## ●両海野家の関係

また、今回のご指摘を受け、改めて『松江藩列士録』（松江藩松平家歴代家臣の系譜と勤功の記録）をはじめとする資料を読み直した結果、典之・恭基の両海野家は親戚にあたることが確認できました。

広瀬藩校の初代教授で、典之の義理の祖父にあたる海野彬之（号紫瀾）について、『海野文庫図書目録』解題等には「松江藩士海野裕の長子であり、（中略）享和元年三月広瀬藩句読教授となった」と紹介されています。しかし、『松江藩列士録』に「海野裕」の名は見当たらないため、これまで調査が深まることはなかったようです。

しかし、恭基の祖である海野左助家の記録をよく読んでみたところ、同家の三代目である海野龍左衛門の事跡の中に、「嫡子才蔵、寛政十三辛酉年二月十二日、松上野介様依御所望、此度御家来二可被遣旨被仰渡之」（句点は引用者）とありました。意識すると、「跡継ぎの才蔵は寛政13年（1801）2月12日、松平上野介様（＝広瀬藩七代藩主・松平直義）のご所望により、この度、家来となるよう言い渡された」。

どうやら、海野裕の通称は「龍左衛門」であり、彬之の松江時代の名は「才蔵」だったと考えられます。そしてこの寛政13年2月に改元があり、享和元年となります。

前述のように、彬之の孫にあたる典之も、米子の高名な医家の長子でありながら海野家跡継ぎに迎えられていますから、広瀬藩が優秀な藩校教授獲得にかけた情熱がいかに強いものであったかが偲ばれます。

そして同じく『松江藩列士録』によれば、長子を広瀬藩に出した龍左衛門は、同年6月、二男信次を嫡子としました。しかし、この二男は病身であったため、さらに文化13年（1816）に三男が四代目を継ぎました。広瀬藩儒・海野家は兄、松江藩士・海野家は本家ではあるものの弟の家系ということになります。すなわち、典之と恭基は「はとこ」の関係だったのです。

### 【参考文献】

#### 海野典之（秋坪）に関するもの

- ・ 「解題」『海野文庫図書目録』島根大学附属図書館、1975年
- ・ 山村良夫著『広瀬藩儒山村勉斎覚書 幕末儒者の生涯』飯塚書房、1978年

#### 海野恭基に関するもの

- ・ 藤井準一郎著刊『市内墓しらべ』1939年
- ・ 荒木英信著『松江八百八町町内物語 末次の巻』島根郷土資料刊行会、1973年
- ・ 内中原教育その百年の歩み編修専門委員会編『内中原教育 その百年の歩み』内中原小学校校舎改築記念事業実行委員会、1979年

#### 共通

- ・ 「海野左助」『松江藩列士録』第4巻、島根県立図書館郷土資料、2005年

（附記）本稿をまとめるにあたっては海野家ご子孫の作花康夫様よりご教示を賜りました。

（文責：松江市文化スポーツ部史料・埋蔵文化財課／村角紀子／令和8年4月15日記）